

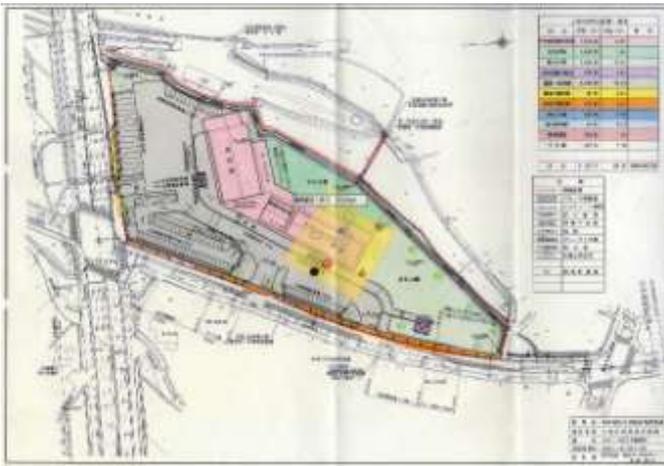
平成 25 年 2 月 7 日

中津市長 新貝 正勝 殿

「道の駅の整備、運営のあり方」に関する提言書

中津市議会 6 次産業推進研究会

会 長 福 元義
事務局長 大塚 正俊
会 員 田上 征人
今井 義人
小倉 喜八郎
武下 英二
三上 英範
藤野 英司
古江 信一
千木良 孝之



1. はじめに

6 次産業推進研究会は昨年 1 月 19 日、中津市議会議員の有志 10 名で、生産者の所得向上、雇用の促進、農山漁村地域の活性化を図る目的で発足し、これまで 8 回の研究会を開催してきました。

私たちは、6 次産業化法に沿って、1 次産業の農林水産物の生産や 2 次産業の加工、3 次産業の流通販売等を総合的に取り組む 6 次産業化の方策の検討や提言を行い、市産農林水産物の付加価値を高め地域の活性化につなげていきたいと考えています。

これまでの取組として、行政の 6 次産業化の取り組みや道の駅の整備に関する調査、博多のマリノアシティーにある九州のムラ市場、道の駅甲子園で日本一となった道の駅たちばなの先進地視察、市内にある下郷農協、JA 大分、道の駅、旬菜館などの直売所の視察、現在工事が進められている国道 10 号線加来地区の道の駅建設予定地の現地調査を行ってきました。

この度、今年 10 月オープンに向けて準備が進められている道の駅について、昨年貴重な縄文遺跡が発掘され、また NHK 大河ドラマに「軍師官兵衛」が選ばれたことを踏まえ、道の駅の整備コンセプトや整備基本方針の見直しが必要であると判断し、「市民に愛される道の駅」にするための方策について議員間で討議し、「道の駅の整備、運営のあり方」を取りまとめましたので提言します。

2. 道の駅のコンセプトについて

道の駅整備の基本理念となる整備コンセプト及び整備基本方針は、昨年の貴重な縄文遺跡の発掘やNHK大河ドラマに「軍師官兵衛」が選ばれたこと、道の駅が名勝耶馬溪、城下町なかつへ誘導する起点と位置づけ、以下のとおり見直しを行う。

【現行】

■道の駅の整備コンセプト

「ひと」が集まり「交流」が生まれる田園の中のいこいの里

■道の駅の整備基本方針

1. 「ひと」「まち」「みち」をつなぐ道の駅

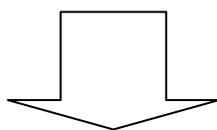
- ・中津市の魅力を広くアピールする情報発信の場、一万円札の肖像・明治を代表する文化人で有名な福沢諭吉の出身地という地域の歴史や文化を伝える場としての「拠り所」の役割を果たす。
- ・八面山への眺望や田園ののどかな雰囲気を活かした人と人、人と地域、地域と地域を結ぶふれあいの場として、中津市の新たな地域活性化の拠点づくりを行う。

2. 誰もが使いやすい「ユニバーサルデザイン」の道の駅

- ・障害を持つ人や高齢者、子ども、外国人など、様々な人が使いやすい施設として整備し、立ち寄った人々の疲れを癒し、暖かくもてなす憩いの里づくりを進める。

3. 地産地消にこだわった道の駅

- ・中津市の豊富な農林水産物をもとに地産地消にこだわった「食」の提供や特産品販売の充実を図る。
- ・地元産の木材を使い、八面山や田園などの周辺景観に映える中津らしさ（城下町という歴史・風土）を表現した建物とする。



【提案】

■道の駅の整備コンセプト

「ひと」が集い「交流」を育む縄文遺跡と出会う駅

■道の駅の整備基本方針

1. 「ひと」「まち」「みち」「とき」をつなぐ道の駅

- ・縄文時代から続く古代遺跡が集中するエリアや名勝耶馬溪、城下町中津へ誘導する核施設として整備する。
- ・中津市の魅力を広くアピールする情報発信の場、一万円札の肖像・明治を代表する文化人で有名な福沢諭吉の出身地、NHK大河ドラマに登場する初代中津藩城主黒田官兵衛という地域の歴史や文化を伝える場としての「拠り所」の役割を果たす。
- ・（以下省略）

- ・文化財調査結果を踏まえ、縄文遺跡を活かした整備を行う。
- ・遺跡の保存方法の検討が必要であり、遺跡を埋めて芝生でレプリカ等を設置する。
- ・発掘された遺構の考古学的価値をアピールするため、整備コンセプトの「田園の中のいこいの里」の見直しを行う。
- ・付近に古代遺跡をモチーフにした「道の駅しんよしとみ遺跡前」があるため、より貴重な文化財である縄文遺跡をモチーフとする。
- ・NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」を売り出す道の駅を整備する。

3. 求められる整備イメージ

賑わいのある道の駅とするためには、魅力のある、出かけて見たくなるような仕掛けが必要不可欠である。そこで、以下の施策を講じること。

【提案】

- ・目玉施設を今回の縄文遺跡にし、遺跡を活かした全体計画（レイアウト）の見直しを行う。
- ・古代遺跡をイメージにした建物コンセプトにする。
- ・日本一のトイレを売りにして、地場企業の TOTO のショールームを招致するとともに、トイレの建物のデザインにこだわりを持つ。
- ・防災公園の範囲を明確にし、防災公園スペースを有効に活用した縄文遺跡公園と特産品で集客を目指す。
- ・大分、別府市から上り方面には道の駅がなく、中津が最初の道の駅となる。一方、小倉からの下り方面では最後の道の駅となるため、観光帰りのお客さんの野菜等の生鮮食料品の購買を誘う仕掛けづくりを行う。
- ・黒田官兵衛、福澤諭吉、前野良沢、小幡篤次郎、広池千九郎、田原淳などの偉人を紹介するモニュメントや写真コーナーを設置する。
- ・週末には、郷土の伝統文化を発信する基地として道の駅を売り出す。

4. 農・林・漁・商・工業連携

魅力ある道の駅とするためには、農業、林業、漁業、商業、工業が連携して多種多様な商品がならぶ直売所にする必要があり、連絡調整を行う組織の立ち上げを行う必要がある。そこで、以下の施策を講じること。

【提案】

- ・古代遺跡をモチーフにし、「赤米（古代米）、水車米（西谷温泉や石堂池の水車）」を買

い取って販売する。

- ・観光バスの立ち寄りでは、旅行業者に購入価格の1割程度をマージンとして支払っているとあり、観光バスとの連携を行う。
- ・成功例では、購入者は市内が5割、市外4割、宅配1割となっており、市民の購買意欲を高める特産品の開発、品揃えを行う。
- ・高速道路から降りてくるお客様をターゲットとした高価値特産品と市内居住者を対象とした生鮮食品の両面の品ぞろえを行う。
- ・果物、野菜、漬物、魚、弁当、総菜など、信頼できる商品を年間通して購入できる場とする。
- ・日曜朝市、日曜魚市の開催、漁協と連携して、はもフライの販売、カキ小屋等の設置を行う。
- ・から揚げが週替わりで常に食べられる催事コーナーを設置する。
- ・1万円せんべいなど中津市固有の菓子や中津の季節のくだもの、6次産業新商品等を開発、販売する。
- ・無農薬野菜だけでは売れないため、品物の差別化を行う。
- ・ダイハツ車やTOTOなどの企業ブースを設ける。(特別割引セールなど)
- ・下郷農協のように、少し高くても美味しい牛乳を販売すべき。
- ・農・林・漁・商・工業が連携して取り組む協議会組織の立ち上げを行う。

5. 年間を通した農作物・果樹の生産体制の確立

中津市を代表する農産物や果樹等を年間通して販売するためには、旧中津市から山国町の寒暖差を利用した生産時期調整や補充体制の確立が必要である。そこで、以下の施策を講じること。

【提案】

- ・年間を通した少量多品目野菜の生産体制を確立すること。
- ・どれだけの品物が揃うかが課題であり、常に海から山までの特産品が揃うよう納入体制を確立する。
- ・道の駅たちばなのように、生産者が自分たちの直売所という気持ちを持てるよう、企画段階から関わる道の駅づくりを行い、常に野菜を生産、補充する体制を作る。
- ・野菜の採れる時期が重なると値段が下がるため、年間を通した野菜作りに向けて旧中津と下毛で生産時期調整を行う。
- ・県振興局の営農指導員の活用と農協に営農指導員を確保して、生産者の技術指導を行う体制をつくる。

6. 小規模農家の集荷・宅配・ネット販売体制の確立、地産地消の推進

多種多様な商品を取り揃えるには、小規模農家に対する集荷システムの構築が必要である。販路を拡大するためには、会員制度の導入による中津市民の集客、ネットショップによる全国展開や学校給食、企業、買い物支援などと連携した地産地消の推進等が必要である。そこで、以下の施策を講じること。

【提案】

- ・少量生産農家の集荷体制を確立するとともに、生産者の顔が見える直売所にする。
- ・6次産業のネットショップに道の駅の商品を掲載し、道の駅をネットショップによる宅配の拠点とする。
- ・伊賀市モクモクファームランドでは、特典付き会員制で会員4万人、40億円の売り上げがあり、会員づくりによる販売促進を図る。
- ・買い物客の動向は、採れたて、安全性を求めて、スーパーで買うより、道の駅で買おうとする気持ちを持っており、直売所の野菜の新鮮さを追求する。
- ・道の駅の商品を保育所、学校給食の食材として使用し、地産地消を推進する。

7. 直売所と飲食店（バイキング）、加工場等の併設

直売所の売り上げ向上と売れ残り野菜等の活用を図るためには、国の6次産業の補助金を活用した飲食店や加工所を併設し、売れ残り野菜の消費や自家消費、付加価値を高める施策を推進する必要がある。また、賑わいのある道の駅とするため、集客する仕掛けとして非日常的な食事を楽しむカキ小屋、バイキング、バーベキューができる施設等が必要である。そこで、以下の施策を講じること。

【提案】

- ・農産物のロスを出さないためにも飲食店、加工所を併設し、国の6次産業化の補助金を活用する。
- ・焼肉セットを貸し出し、食材は道の駅で購入して、テラスでバーベキューができる仕掛けを作る。
- ・遺構のかまどを再現して、魚などを石焼きにする石焼コーナーを設置する。
- ・中津米をかまどで炊き、おにぎりとして実演販売する。
- ・歩道に屋根を付けて、イベント、仮設店舗として利用できるようにする。
- ・遺跡の場所が食堂予定となっているが、食堂の広さは確保する。
- ・納品しても、売れずに返品されると農家の心が折れる。売れ残ったものを漬け物にしたりにして付加価値を高め、廃棄を減らす必要がある。
- ・懐かしのメニューの復活による町おこしを行う。
- ・葉物野菜を主力にすると売上が伸びないため、つけものなど加工品として収益を上げる

必要がある。

- ・糸島の道の駅では、カキ小屋をやっている。カキ 1000 円/kg (7 から 8 個)、ごはん、ビールは別途購入。コンロ 300 円は個人負担。砂利の駐車場ではあるが土日は混雑している。

8. 持続可能な経営

持続可能な道の駅とするためには、盤石な経営基盤と長期経営戦略が必要であり、民間活力の導入による第3セクター方式等による運営を図る必要がある。また、直売所の販売手数料は、商品価格に上乘せされるため、生産者、購買者にも大きく影響するため、安価にする必要がある。さらに、道の駅に精通した店長を配置し、社員に対するおもてなしの教育等を実施する必要がある。そこで、以下の施策を講じること。

【提案】

- ・運営体制は道の駅“たちばな”のように第3セクター方式等にして、農協に直売所だけを任せ、行政が関われる組織にすること。
- ・杉乃井ホテルは、オリックスが入って経営再建をしている。民間企業の経営手法を取り入れる。
- ・市民の税金を投入しているので、5～10年スパンで、市民ニーズを反映した市がオーナーとしてのルールづくり（賃料、顧客満足度の向上）を行うこと。
- ・道の駅で成功しているのは民間主体の駅であり、お客様のニーズを的確に把握できるようにすること。
- ・適正な賃料は回収できるように、早期に農協と契約を締結する。
- ・持続可能な経営に向けて、農協の長期経営戦略や事業計画について事前評価を行うこと。
- ・道の駅は、農協直売所（オアシス）を広くするイメージでは成功しないため、道の駅全体をコーディネートする組織が必要である。
- ・売上額5億円の目標年度を明らかにし、助走期間を設ける必要がある。
- ・旬彩館が年間1億円の売り上げになるのに、3年程度かかった。道の駅で5年後に5億円の売り上げは非常に厳しい計画となっている。
- ・交通量からの入込客（72万人/年間）、売上目標5億円は過大すぎるのではないか。
- ・野菜だけでは購入額は少ないので、多様な商品を置く必要がある。
- ・農産物の生産体制の確立、育成、新規商品開発など先行投資を行う。
- ・委託販売手数料は生産者と購入者に影響するため、現行の農協の20%（冷蔵、冷凍22%）を15%程度（17%）に引き下げるよう協議をすること。
- ・すぐに利益を上げるのは難しいため、企業誘致優遇策のように3年間賃料を無料にし、賃料を無料にした期間は、手数料を15%程度に下げるなどの生産者支援を行う。
- ・農協が長年培ったノウハウを活かした農産物の生産や品揃えを行うこと。
- ・売り上げが伸びたらボーナスを出すなど、職員の意識高揚策を講じるとともに、おもて

なしに力を入れた販売を行う。

- ・萩往還の道の駅では、販売のノウハウを持った人が担当しており、店長に専門家を配置すること。
- ・伊賀市のモクモクランドは、毎月1回イベントを実施しており、定期気にイベントを実施すること。
- ・生鮮野菜は2日で売れない分は返品されるため、店員のきめ細やかな対処が必要である。
- ・良い品物を高く売るか、普通の物を安く売るか売値価格の設定の方針を事前に決定すること。
- ・商品が少なくなったら補充するシステムを構築すること。
- ・来客者数が72万人という計画であるが、東九州自動車道が開通すると交通量が減少するので、地元消費者のニーズをつかむ商品リストの作成を行う。他市の例により地元の購入者比率50%以上を目指す必要がある。
- ・大山道の駅のバイキング料理は70分間で1350円、品数が多く、デザートが小さくて種類が多い。親切、丁寧な接客態度を研修するとともに、専属のマスターを配置する。
- ・成功した道の駅では、お客さんの満足度が高い。地域に合った満足度を高める仕掛けづくりを行う。

9. 情報休憩施設の機能

情報休憩施設は、道路利用者のための「休憩機能」や道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」を有する必要がある。そこで、観光協会の移設によるおもてなしの充実や中津の歴史や観光をPRする仕掛けづくり、情報発信機器の配置が必要である。

また、中津市内の農産加工品がすべて揃う場所になることから6次産業化の拠点として事務局を移転し、ネットショップの配送センター、6次産業化のアドバイスを行う必要がある。そこで、以下の施策を講じること。

【提案】

- ・観光情報を発信する基地として観光協会を移転させ、観光協会事務局として人員を配置し、マンパワーによるおもてなしや中津の観光地や黒田官兵衛をPRする。
- ・6次産業推進協議会の事務局を道の駅に移転し、きめ細やかな支援を行う。
- ・観光地の映像をリアルタイムで観られるように必要な機器を配置する。
- ・展示室を設け、縄文土器等を展示し、縄文土器を作って販売する。
- ・中津市の古代遺跡の情報として、粉洞窟、風の丘、沖代条里、官衙遺跡等のレプリカを置いて、情報発信する。

10. 道の駅のユニバーサルデザイン

道の駅は、誰もが安心して利用できるよう、すべての施設においてユニバーサルデザインを導入する必要がある。

【提案】

- ・道路と歩道のバリアフリー化を図る。(フラット化)
- ・歩道に屋根を付けて、濡れないようにするとともに、イベント、仮設店舗として利用できるようにすること。
- ・トイレ等のすべての施設は、ユニバーサルデザインの視点で整備する。

11. 整備スケジュール

現在、道の駅の整備は、造成工事が進められており、直売所のオープンが平成25年10月頃、駐車場、外構、トイレ、情報休憩施設を平成26年3月オープン、中津グルメ食堂の整備年度は未定となっている。

道の駅は、すべての施設が揃って初めて機能するものであり、施設の整備計画や運営方針を再度検討し、持続可能な道の駅として同時オープンする必要がある。

【提案】

- ・仮設トイレでの直売所オープンは、今後に影響するためやめるべきである。
- ・直売所だけを10月にオープンにするのではなく、全体が完成する平成26年3月をにらんでじっくり整備方針を検討する。

12. 市民参加の道の駅づくり

道の駅が、「地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場」となるためには、計画段階から市民の参画が必要である。そこで、市民による出資や経営への参画、市民アンケートの実施等の施策を講じる必要がある。

【提案】

- ・おらが町の道の駅という意識を醸成するため出資制度や会費制の会員づくりを行い、ポイントカードや会員優遇制度を確立する。
- ・早急に、道の駅の商品構成について、市民アンケートを行う。
- ・会員には、随時アンケート調査で市場調査を行う。
- ・高校生の料理クラブサークルと連携して、商品開発、販売体験を行う。
- ・中津支援学校等の野菜や焼き物を販売するコーナーを設置する。

13. 終わりに

国土交通省道路局ホームページによると、「道の駅とは」

長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められています。

また、人々の価値観の多様化により、個性的でおもしろい空間が望まれており、これら休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し多様で個性豊かなサービスを提供することかできます。

さらに、これらの休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されます。

こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」、の3つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が誕生しました。

と解説されており、中津市が計画している道の駅が、「地域とともにつくる個性豊かな、にぎわいの場」となることを強く期待し、提言いたします。